

新年明けましておめでとうございます。

皆様と被災者の方達にとって、今年も良い年でありますように！

去年の2月に気仙沼に来て、早や1年近くが経ちました。年頭にあたり、被災地で感じたことについて 書きます。

復興の問題点―第三者の立場で済みませんが

- ① 被災者の生活の再建と復興の街づくりは、切り離すべきではなかったかと思います。両方共に、復興予算は当初 27 年度完成と言うことで、一緒に事業をしてきました。しかし、高台移転や土地区画整理事業、集積地の嵩上げ工事が遅れた結果、災害公営住宅や水産加工団地の再建が遅れてしまいました。生活の再建は1・2年の緊急な事業ですが、まちづくりは10・20年かけても良かったのではないのでしょうか。
- ② 高台への防災集団移転や郊外への災害公営住宅の建設によって、街は郊外へと拡散しました。高齢化や人口減少が進む中で、今でさえ公共バスが不便な気仙沼では、商店や病院へ行くのには、車が無ければ行けません。車を運転できなくなったら、生活ができなくなります。
- ③ 3割自治を思い知らされました。私が担当している災害復旧事業は、全額国の負担です。災害査定と変更があれば、何事も県の担当者に相談しなければなりません。この1年間で県の担当者も、私に対して何かとアドバイスをしてくれるようになりました。
- ④ 最も評価できることは、防潮堤の建設について、住民の人達と最低でも5・6回は地元説明会を実施して、住民合意のうえで事業をし進めていることです。

気仙沼へ来て良かったこと

- ① 私は三陸と気仙沼が好きになりました。素晴らしい海岸や漁港は、三陸に来なければ、一生知ることができませんでした。魚も新鮮で食べきれません。
- ② 仕事にやりがいを感じています。私の担当している防潮堤の建設については、市民の風当たりも強いですが、それでも全国から応援に来ている職員には、市民の方はまず初めに「ご苦労様です」と声をかけてくれます。
- ③ 地方からの視点で、また自分の眼で社会を見ることができるようになりました。三陸地方は、東北の中でも過疎地です。そして、今東北は、①被災地、②TPP 交渉、③福島的第一原発事故と、正に政治や社会の縮図です。地方紙も地方の視点から、中央政府を批判して、ズバズバと言いたいことを報道します。
- ④ 被災地や東北を電車や車で回っています。電車はすいていて坐れます。海岸線は素晴らしいです。昔は栄えたと思われる商店街が至る所にあります（現在はシャッター通りですが）。古い街並みもたくさんあります。（有名な観光地では無くても）
- ⑤ 「気仙沼通信」を通じて、多くの仲間や友人の皆さんと繋がることができました。お陰さまで、パソコンのメールができるようになりました。携帯のメールはまだですが。

気仙沼で困ったこと

①映画館がありません。マックやブック・オフ也没有。夜散策できる街也没有。また、車が無ければ、どこに行くこともできません。

② 夏は避暑地ですが、冬は寒い。この前体温を計ったら、何と 35.5℃でした。看護婦さんもビックリ。私は変温動物（変態動物ではない）に進化したので、もう寒さは大丈夫です。チョット待て、もう灼熱のインドへは行けない体になってしまったかも。

③ 私にとって、海岸の工事は初めてなので、仕事で落ち込むこともあります。ホームシックにかかることもあります。また、孤独に耐えられなくなる時もたまにあります。

私の評価は下がる一方

「気仙沼通信」を読んでいると、上田さんは旅行や好きなことをして、良い気分よね」「上田さんが気仙沼へ行っているから、復興が遅れてるんじゃないの」「そうよそうよ」と、私の評価は急降下です。安倍自公政権の支持率の低下と競っています。

【というわけで、私は仕事もしています！？（宿舞根（しゅくもうね）漁港にて）】



*私の任期は今年の12月までです。被災地を見たい人、気仙沼へ来ておいしい魚を食べたい人、私に会いたい人（イナイカ）は、早めに連絡して下さい。お待ちしております。

*今年の年賀状は、この「気仙沼通信」をもって代えさせていただきます。すみません

住所：〒988-0238 宮城県気仙沼市長磯中原 125 階上中学校住宅 16-5

携帯：090-5300-4664 PC メールアドレス：p-mia087@nifty.com